



「学問の魅力」や高校との「学びのつながり」をひもとく

学びのみちしるべ

第14回

大学での学びの中身と、その学問が社会でどう役立つのかを大学の先生が解説。進路選択のみちしるべとなるよう、高校での学びがその学問にどうつながるのかもお聞きしました。



社会環境工学

早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科
[お聞きした先生] >> 佐々木 葉教授

Q この学問の内容、面白さは？

A **土木工学をベースにしつつ、環境と調和し、安心安全な社会インフラの構築とまちづくりの実現を目指す学問**

社会環境工学は土木をベースに、自然と調和した、安心安全な社会づくり、まちづくりに貢献する学問です。私たちの身の回りにはビルや橋、道路などの構造物は、作る側が一方向的に作っていいはずはありません。周囲に住む人たちの合意のもと、生活に悪影響を与えないことはもちろん、景観に馴染むことや、その地域の生態系のつながりを大切にすること、いろいろな観点を踏まえて社会を支えるインフラは計画され、まちづくりを行っていく必要があります。そのための方策を実践的に学びます。特に昨年、地震や風水害など自然災害が増えたこともあり、災害予測や被害を受けた後の復興を意識した、安全な都市づくり、社会基盤の構築も社会環境工学の大きな柱になっています。

私の専門は景観デザイン、まちづくり。実際に現地へ足を運んで地域の方々と密接に関わりながら、その歴史を学び、そのまちの景観や空間構造を分析。そのうえで持続可能なまちづくりを実践するためには、何をすればいいか、この先、どんなことをすべきなのかを研究しています。

今、関わっているのは岐阜県郡上八幡、長野県宮田村などといった小さなまちのプロジェクトです。郡上八幡はもう20年以上前から、橋のデザインから始まり、町並みの調査や空き家の活性化、水路の活かし方などのお手伝いをしてきました。歴史的な町並みが高く評価されていますが、観光のための景観保全だけをやっていても意味がありません。このまちの生活者である住民は、何を残して何を残したいと思っているのかを学生と共に徹底的に調査し、その時代の状況を見据えながら提案してきました。宮田村では景観法に基づく景観計画の策定に村の方たちと共に取り組んできました。近い将来、大きなバイパスが通る計画もあるのですが、それが村の風景と人々の生活にどれだけの影響を与えるのかも踏まえて研究しているところです。さまざまな地域のプロジェクトに関わる魅力は、予期しない「宝物」に出会えること。素晴らしい風景もそうですが、特に感激するのはその土地を愛して暮らす人々です。あるまちでは、みんなで議論して広場と居場所になる施設を整備したら、それがきっかけで、地域の方々から広場近くの空き家を改造してお店を始めたり、花を植え始めてくれたりしたんです。自分たちの活動から、思いがけない素敵なアクションが展開していくのが嬉しいですね。



橋上から若者たちが川に飛び込むのが郡上八幡の夏の風物詩。彼らもたれたり、飛び込みの足場となる欄干、風景に溶け込む色など、このまちならではの橋のデザインを提案(写真:猪股誠野)

Q 社会でどのように役立つ？

A **フィールドワークで身に付けた俯瞰して物事を見る力はどんな仕事にも役立つ**

私の研究室はフィールドワークが中心です。現地では学生を野に放ち、自由に動いてもらい、自分が研究したいテーマを見つけてもらいます。これが正解だ、と決まった答えがあるわけではありません。実際にその地域に出向き、まちの歴史や、その土地の形状などを徹底的に調べます。その土地の住民の方々ワークショップという形で議論し合うことも多いです。そうした経験の中で、学生たちは多面的に物事をとらえたり、俯瞰して見る力を培っていきます。それはどんな仕事にも役立つ力です。

卒業後、そのまま大学院へ進学する人も多いです。建設業、鉄道、公務員など社会環境工学で学んだことが直接活かせる仕事に就く人もいます。ただ、私の研究室からは自分で小さなデザイン事務所やコミュニティスペースを立ち上げるなど、自らの力で何かを成し遂げようとする人が何人もいます。中には石積み職人になった人も。研究室の活動を通して、それぞれが独立心を身に付けてくれたことは、私の誇りです。

Q 高校の科目とのつながりは？

A **理数系科目、そして人と関わるのが好きなこと。理系だけど、文系も良いなと思っている人向きです**

社会環境工学科では、理数系科目、特に数学は必須とされますが、地理など社会科目も得意だと好ましい。純粋なサイエンスや機械工学とは異なり、理系の中でも比較的「人や社会との関わり」が多い学問なので、普段から人と関わるのが好きだと思える人がいいです。なので、基本的には理系だけど、文系が理系どちらへ進もうか迷っている高校生に、意外に向いている気がします。

私たちは日々誰かが考え作ったものの上で生活しています。そのことに気づいた時に環境に感謝する気持ちが芽生え、身近な建造物や空間がイキイキして見えてきます。そんな風に日常の風景に目を向けてもらえると、それがこの学問に生きてくると思います。



総合政策学

慶應義塾大学 総合政策学部長
[お聞きした先生] >> 土屋大洋教授

Q この学問の内容、面白さは？

A **あらゆる学問の知識や手法を使って、社会が抱える問題の解決方法を考えるのが総合政策学**

法学、政治学、経済学など一般的な学問は、その専門領域を深く学び研究します。しかし、総合政策学にはこれだけで十分という専門領域はありません。一つの学問の枠にとどまらず、あらゆる学問の知識や研究手法を使って、社会の問題を発見したり、解決するための、新しいアプローチ方法を生み出す学問です。例えば、大きな震災が起きた場合、そこで何ができるかを考えるには、財政学の知見、土木工学の知見、さらにボランティアにどうやって若い人を巻き込んでいか、行政と連携するかといった組織論の知見も必要になります。そんな中で人や組織のネットワークをどうつないでいか、その方法を考えるのがまさに総合政策学なのです。

座学の授業では今のリアルな問題についてどう思うかを学生同士で議論してもらっています。最近だと、安全保障という観点からドローンなどの新技術はどう取り入れたいのか、コロナ禍の中、各地方自治体はどうすればいいか、五輪問題をどうとらえるか、などを議題にしています。ただ解決策だけでなく、それらの何が問題なのかを発見してもらうことも重点を置いています。

フィールドワークにおいてもいろいろな学問の知見を総動員し、一つの学問の延長から出てくるアイデアとは違う問題を探して、新たな政策を考えるということを学生には実践してもらっています。そのためにも、さまざまな分野のことを浅くでもいいので見聞を広めておくことが重要なので、私のゼミ生であっても他のゼミを掛け持ちすることを推奨しています。私はサイバーセキュリティ、国際関係論、情報社会論が専門ですが、私のゼミ以外に、建築関連の先生のゼミをとっている学生がいます。例えば、テロ組織タリバンがアフガニスタンの遺跡を破壊したという事件に対して、彼は建築を学んでいることによってタリバンが遺跡を狙うことにどういう意味があるのかを考えることができます。同時に、国際関係論の観点からはタリバンという集団がなぜこの世に出てきているのかといったことも考えることができます。つまり、一つの事象を多面的にとらえることができるわけです。そのため思いも寄らない発想で、この問題の解決策を見出すことができます。分野を横断することで、このように複眼的に物事を洞察し、問題解決の糸口を考えることができるようになるわけです。

Q 社会でどのように役立つ？

A **逆に社会で役に立たないことは学ばない。どんな仕事にも活かせる「コラボレーション力」も身につく**

総合政策学の目的は未来の社会をより良くすることなので、社会に役立つことしか学ばないと思っただいていいでしょう。また、総合政策学での学びを通して問題発見力、問題解決能力はもちろん、コラボレーションする力が身に付きます。本学の場合、仲間と連携して課題解決に向かうグループワークが非常に多いです。その中で身に付いたコラボレーション力は必ず役に立ちます。例えば、どんな仕事においても問題が起きた場合、決して一人では解決できません。仲間と連携して解決策を生み出していくことになります。ネットで情報を得ることは誰でもできます。でも、ネットには載っていないことでもあの人に聞けばわかるという勘どころを動かして、そういう人を引き寄せて、問題を解決するための連携を請うコラボレーション力があるかないかで全然結果が変わってきます。

Q 高校の科目とのつながりは？

A **社会関連の科目全般、英語や数学も世の中の理不尽さを感じ取れる高校生に目指してほしい**

地理、歴史(日本史、世界史)、公民、現代社会、政治経済は総合政策学にはとても重要です。社会系教科はしっかり勉強してください。英語も結構、使いますし、データサイエンスを扱うことも多いので数学の基礎知識はあった方がいいですね。

世の中で何が起きているかにアンテナを張っておく必要があるので新聞も読んでおくといいと思います。インターネットなどではわからない世界の問題が見えてくるので。

あと「なぜ世の中はこんな風なのか」「おかしくないのか」と世の中に理不尽さを感じている高校生に総合政策学の門を叩いてほしい。普段私は学生に「愛か怒りがあるテーマでなければ、やらない方がいい」と言ってます。好きで好きでたまらないという気持ちと同じくらい、「許せない」という怒りは大きなモチベーションになるんです。ボーッと生きていられない、世の中に怒りを持っている人に来てほしいですね。



おすすめ BOOK

「接続性の地政学」(パラグ・アンナ著・原書房)。コロナによって断ち切れようとしているグローバル化。今後5年、10年先にある世界がテーマ。「今、私も読んでるところです」(土屋先生)